

浜の活力再生プラン
令和 6 ～ 1 0 年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	兵庫県地域水産業再生委員会 室津浦漁協部会
代表者名	漣 勝也（室津浦漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	室津浦漁業協同組合、淡路市、兵庫県淡路県民局洲本農林水産振興事務所
オブザーバー	兵庫県漁業協同組合連合会

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	兵庫県淡路市室津（室津浦漁協の地区） 底引網漁業(39名)、船曳網漁業(5名)、海苔養殖業(41名) 刺網漁業(7名) 合計 92名 (出典：漁業組合調べ 令和5年11月17日現在)
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地域は、兵庫県淡路市の南西部に位置し、四季を通じて様々な魚介類が水揚げされており、漁獲される魚種は「タコ」が最も多く、イカナゴ、チリメン、カレイ、イカなどとなっており、水揚げされる魚種は30種類を超える。水揚げされた魚介類は、漁協の荷捌施設において競りに掛けられ、大阪・神戸などの市場に出荷される。また、平成10年の明石海峡大橋開通により消費地に近接する好立地となった事もあり、漁業者自身が阪神間の市場に直接漁獲物を持ち込む出荷形態もある。

近年の漁業の状況は、海洋環境の変化による漁獲物の減少や魚離れによる消費量の減少、仲買人の取扱量の減少等、様々な要因によって魚価の低下が進行している。また、消費者も魚の調理方法や食べ方が分からない為、魚離れに拍車がかかっている。

当地域では、古くからノリ養殖業も盛んであり、地域内で生産されるノリの多くが業務用として流通している。しかし近年ノリ養殖海域の栄養塩の低下により色落ちが発生し、生産したノリの品質が低下する事により生産枚数が減少し生産金額が減少するなど不安定な状況にある。

近年では漁業用資材や燃油価格の高騰に伴う経費の増加により、漁船漁業・ノリ養殖業の経営を圧迫している。また、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、魚価の低迷が著しい時期もあり、漁家経営に大きく影響があった。加えて、漁業者の高齢化による後継者不足も大きな問題となっている。

平成26年10月には、県予算を活用し、当地区の荷捌所に併設して「県民交流広場」が開設された。今後も当該施設を活用し、漁協・漁業者による地元水産物や総菜を販売する青空市や料理教室の開催も継続して行く予定である。

(2) その他の関連する現状等

- ・今後30年以内の発生する確率の高い南海トラフ地震に対する災害対策が進んでいない一方で、施設及び機器の老朽化に伴い、維持経費の増大により組合経営を圧迫している。
- ・淡路島西海岸として、集客力の高い大型レジャー施設が近隣に開設されたので、地域の活性化として 地域資源を活かした水産物の販売等の取組が必要である。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

当プランの推進により、当再生委員会構成員は以下の取組を行い、漁業収入向上及び漁業コスト削減をはかるとともに、魅力ある地域づくりを推進する。 ○漁業収入向上のための取組 ①漁獲物の品質向上 ・漁獲物の船上での目視選別、規格外の再放流を徹底し、荷捌き作業を効率化することにより、漁獲物の活力や鮮度を維持する。 ・漁労作業時に活魚のロスを軽減する取組を徹底することにより、魚価の向上を図る。 ・活魚車運搬時に水温管理、酸素供給を徹底することにより活魚のロスを軽減し、当地区の産地としての評価を向上させる。 ②ノリ生産額の増大 ・県漁連からの指導を遵守し、ノリの良品生産の拡大による生産額の増大を図る。 ③漁場環境の保全と資源量の増大 ・海底耕耘等の漁場環境の保全にかかる活動を実施し、資源量の増大を図る。 ・農業者と協力してため池のかいぼりを実施し、海底へ栄養塩を供給することにより、海苔の生産量および生産額の増大を図る。 ・有用魚種の種苗の放流や資源管理の取り組みを実施し、資源増大を目指す。 ④地元水産物の消費拡大 ・水産物の各PR活動や魚食普及活動を展開し、消費拡大を図る。 ・地元商店等と提携してノリの販売を強化し、消費拡大を図る。 ⑤新規就業者の確保及び育成 ・漁業への就業希望者に対し、漁業者による漁業技術の実践研修を行い、新規就業者の確保と育成を図る。 ○漁業コスト削減のための取組 ①燃油の急騰に対する備え ・漁業セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油の高騰に備える。 ②省燃油活動の推進 ・減速航行等の省燃油活動を徹底し、燃油消費量の削減を図る。 ③省エネ機器等の継続活用 ・導入した省エネ機器の継続活用により、燃油消費量の削減を図る。 ④ノリ生産の経費削減 ・過年度に導入した大型ノリ自動乾燥機等により、効率的なノリ養殖業を行い、コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。まだ導入していない漁業者は、その取組を参考にして導入を検討する。 ○漁村の活性化のための取組 ①消費者との交流の促進 ・地元水産物を販売する青空市やふれあいイベント、淡路市漁業水産祭り等を通じて地域との交流を深め 水産物の消費拡大を図ると共に 漁村の活性化に取り組む。

(3) 資源管理に係る取組

操業禁止期間、全長等の制限等の規制の順守による資源へ与える負荷の抑制
(兵庫県漁業調整規則、瀬戸内海漁業調整委員会指示)
共同漁業権行使規則に基づく制限の徹底による資源保護
兵庫県のり養殖漁場改善計画に定められているノリ網枚数の上限の遵守

(4) 具体的な取組内容

1 年目 (令和 6 年度) 所得向上率 (基準年比) 6.8%

漁業収入向上のための取組	①漁獲物の品質向上 漁協は、漁業者や仲買人と協力し、当地区において最も漁獲量の多い「タコ」をはじめ、カレイ類、ハモ、イカ類など淡路島西海岸で漁獲される水産物について、以下取組により品質向上を図る。 ・漁船漁業者は、規格外の小さな魚体のものが誤って販売されるとすぐに魚価が下がるため、誤混入を避けて単価の高い状態を保持するよう、漁船上での目視選別、規格外の再放流を徹底したうえで共販市場にかけ、水揚げ後の選別等荷さばき作業時間の短縮による市場の効率化により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して継続する。 ・漁船漁業者は、マダコ、カレイ類、ハモなどの活魚について、漁獲時の網ズレによる魚体の傷や船上での選別や生簀への収容作業のストレスによる活力低下でロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、船上収容時の網ズレ軽減のため漁船甲板にゴム板を敷き、操業中の船上選別から漁船の生簀への収容時には、人の手で直接魚体に触れて魚が傷まないよう、手袋の着用を徹底する。 ・漁船漁業者は、阪神間の中央・地方卸売市場へカレイ類やマダコ等の活魚出荷も行なっており、活魚車による市場への搬送時には氷を用いて活魚槽内の水温を適温に一定管理するとともに、エアレーションによる水槽への酸素供給を徹底し、活力保持に努めることで死魚のロス率を極力なくし、活魚での出荷率の向上に取り組み、当地区の産地としての評価を向上させることに努める。 ②ノリ生産額の増大 ノリ養殖業者全員は、破れ製品や異物混入等の不良品削減や製品の生菌数削減のため、県漁連から指導されている日々の生産開始時のノリ原藻洗浄機器への通水を十分に行い、残存しているノリの破片や異物の洗浄を徹底するとともに、県漁連の指導により開始された異物混入対策点検表の記載を徹底し、良品生産の拡大による生産額の増大を継続する。 ③漁場環境の保全と資源量の増大 ・全漁業者は、海底耕耘、アサリ等二枚貝の放流等漁場環境の保全にかかる活動を継続する。また、『漁業者による森づくり活動』に参加し 植樹・伐採作業を行う事で豊かな森を作り、漁場環境の保全に取り組む。 ・全漁業者は、農業者と協力し、ため池に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給するかいぼり（ため池の底掃除）作業等により栄養塩低下を抑え、そして栄養塩を供給することで海苔の生産量および生産額の増大を図る。 ・全漁業者は、オニオコゼ、ヒラメ、マコガレイ、クマエビの種苗の放流
--------------	--

	等栽培漁業や資源管理の取り組みに継続して実施し、資源増大を目指す。 ④地元水産物の消費拡大 ・漁協は、全漁業者と協力し、地元商工会等とも連携して、夏季に海水浴場客を対象にマダコの掴み取りの実施や、当荷捌き施設に併設した県民交流広場を活用し、タコ飯・タコの唐揚げ等を振舞うなど地元特産のマダコのPRや県民交流広場での青空市の開催や地元消費者等に魚の調理方法や食べ方などの料理講習会を開催し、水産物のPR活動や魚食普及による消費拡大の取り組みを継続して行う。 ・漁協は、地元商店やコンビニエンスストア、高速道路パーキング内の店舗等と提携して地元特産の味付け海苔の販売を提案し、地元住民はもとより淡路島への観光客に地元特産の「ノリ」を食べてもらう事により、消費拡大の取組を行う。 ⑤新規漁業者の確保及び育成 漁協は、全漁業者と協力し、経営体育成総合支援事業を活用し、漁業への就業希望者に対し漁業者が海上での漁業技術や陸上での網の補修作業などの実践研修等を行い、新規就業者の確保と育成を進める。
漁業コスト削減のための取組	①燃油高騰に対する備え ・漁協は、漁業セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油の高騰に備える。 ②省燃油活動の推進 ・全漁業者による漁場までの減速航行の徹底、定期的な船底清掃による抵抗削減などを実施し燃油消費量を削減させる。 ③省エネ機器の継続活用 ・小型底びき網漁業者及びノリ養殖業者グループが、競争力強化型機器導入緊急対策事業を活用して導入した省エネ機器の継続活用により、当該漁業者の燃料消費量の削減を図る。 ④ノリ生産の経費削減 ・令和3年度に大型ノリ自動乾燥機を導入した1経営体・令和4年度にノリ高性能刈取船を導入した1経営体・令和2年度に漁船エンジンを導入した2経営体は、効率的なノリ養殖業を行い、ノリ加工にかかる水道光熱費または燃料消費量の削減等、コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 ノリ養殖漁業4水産は、過年度に導入した大型ノリ自動乾燥機を活用し、引き続き、ノリ加工にかかる水道光熱費等コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 先行して補助事業を活用した水産の生産状況、経費の削減状況を参考として他の水産についても大型ノリ自動乾燥機、上屋、ノリ高性能刈取船の導入を目指す。
漁村の活性化のための取組	①消費者との交流の促進 ・当地区の荷捌所に併設された「県民交流広場」を活用し、漁協・漁業者による地元水産物や総菜を販売する青空市やふれあいイベント等を精力的に行い、漁村の活性化に取り組む。 また、年に1回開催している、淡路市9漁協で構成されている淡路市漁業振興協議会が主催する『淡路市漁業水産祭り』を今後も継続し、地域との交流を深め 水産物の消費拡大も図ると共に 漁村の活性化に取り組む。

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、経営体育成総合支援事業、水産業強化支援事業・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業・競争力強化型機器導入緊急対策事業
-----------	--

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）7.8%

漁業収入向上のための取組	①漁獲物の品質向上 漁協は、漁業者や仲買人と協力し、当地区において最も漁獲量の多い「タコ」をはじめ、カレイ類、ハモ、イカ類など淡路島西海岸で漁獲される水産物について、以下取組により品質向上を図る。 ・漁船漁業者は、規格外の小さな魚体のものが誤って販売されるとすぐに魚価が下がるため、誤混入を避けて単価の高い状態を保持するよう、漁船上での目視選別、規格外の再放流を徹底したうえで共販市場にかけ、水揚げ後の選別等荷さばき作業時間の短縮による市場の効率化により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して継続する。前年の結果を踏まえ、市場作業効率化の手法を改善しながら取り組んでいく。 ・漁船漁業者は、マダコ、カレイ類、ハモなどの活魚について、漁獲時の網ズレによる魚体の傷や船上での選別や生簀への収容作業のストレスによる活力低下でロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、船上収容時の網ズレ軽減のため漁船甲板にゴム板を敷き、操業中の船上選別から漁船の生簀への収容時には、人の手で直接魚体に触れて魚が傷まないよう、手袋の着用を徹底する。前年の結果を踏まえ、活魚維持の手法を改善しながら取り組んでいく。 ・漁船漁業者は、阪神間の中央・地方卸売市場へカレイ類やマダコ等の活魚出荷も行なっており、活魚車による市場への搬送時には氷を用いて活魚槽内の水温を適温に一定管理するとともに、エアレーションによる水槽への酸素供給を徹底し、活力保持に努めることで死魚のロス率を極力なくし、活魚での出荷率の向上に取り組み、当地区の産地としての評価を向上させることに努める。前年の結果を踏まえ、活魚維持の手法を改善しながら取り組んでいく。 ②ノリ生産額の増大 ノリ養殖業者全員は、破れ製品や異物混入等の不良品削減や製品の生菌数削減のため、県漁連から指導されている日々の生産開始時のノリ原藻洗浄機器への通水を十分に行い、残存しているノリの破片や異物の洗浄を徹底するとともに、県漁連の指導により開始された異物混入対策点検表の記載を徹底し、良品生産の拡大による生産額の増大を継続する。前年の結果を踏まえ、ノリの品質向上の手法を改善しながら取り組んでいく。 ③漁場環境の保全と資源量の増大 ・全漁業者は、海底耕耘、アサリ等二枚貝の放流等漁場環境の保全にかかる活動を継続する。また、『漁業者による森づくり活動』に参加し植樹・伐採作業を行う事で豊かな森を作り、漁場環境の保全に取り組む。 ・全漁業者は、農業者と協力し、ため池に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給するかいぼり（ため池の底掃除）作業等により栄養塩低下を抑え、そして栄養塩を供給することで海苔の生産量および生産額の増大を図る。 ・全漁業者は、オニオコゼ、ヒラメ、マコガレイ、クマエビの種苗の放流
--------------	---

	等栽培漁業や資源管理の取り組みに継続して実施し、資源増大を目指す。 ④地元水産物の消費拡大 ・漁協は、全漁業者と協力し、地元商工会等とも連携して、夏季に海水浴場客を対象にマダコの掴み取りイベントの実施や、当荷捌き施設に併設した県民交流広場を活用し、タコ飯・タコの唐揚げ等を振舞うなど地元特産のマダコのPRや県民交流広場での青空市の開催や地元消費者等に魚の調理方法や食べ方などの料理講習会を開催し、水産物のPR活動や魚食普及による消費拡大の取り組みを継続して行う。 ・漁協は、地元商店やコンビニエンスストア、高速道路パーキング内の店舗等と提携して地元特産の味付け海苔の販売を提案し、地元住民はもとより淡路島への観光客に地元特産の「ノリ」を食べてもらう事により、消費拡大の取組を行う。 ⑤新規漁業者の確保及び育成 漁協は、全漁業者と協力し、経営体育成総合支援事業を活用し、漁業への就業希望者に対し漁業者が海上での漁業技術や陸上での網の補修作業などの実践研修を行い、新規就業者の確保と育成を進める。
漁業コスト削減のための取組	①燃油高騰に対する備え ・漁協は、漁業セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油の高騰に備える。 ②省燃油活動の推進 ・全漁業者による漁場までの減速航行の徹底、定期的な船底清掃による抵抗削減などを実施し燃油消費量を削減させる。 ③省エネ機器の継続活用 ・小型底びき網漁業者及びノリ養殖業者グループが、競争力強化型機器導入緊急対策事業を活用して導入した省エネ機器の継続活用により、当該漁業者の燃料消費量の削減を図る。 ④ノリ生産の経費削減 ・令和3年度に大型ノリ自動乾燥機を導入した1経営体・令和4年度にノリ高性能刈取船を導入した1経営体・令和2年度に漁船エンジンを導入した2経営体は、効率的なノリ養殖業を行い、ノリ加工にかかる水道光熱費または燃料消費量の削減等、コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 ノリ養殖漁業4水産は、過年度に導入した大型ノリ自動乾燥機を活用し、引き続き、ノリ加工にかかる水道光熱費等コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 先行して補助事業を活用した水産の生産状況、経費の削減状況を参考として他の水産についても大型ノリ自動乾燥機、上屋、ノリ高性能刈取船の導入を目指す。
漁村の活性化のための取組	①消費者との交流の促進 ・当地区の荷捌所に併設された「県民交流広場」を活用し、漁協・漁業者による地元水産物や総菜を販売する青空市やふれあいイベント等を精力的に行い、漁村の活性化に取り組む。 また、年に1回開催している、淡路市9漁協で構成されている淡路市漁業振興協議会が主催する『淡路市漁業水産祭り』を今後も継続し、地域との交流を深め 水産物の消費拡大も図ると共に 漁村の活性化に取り組む。

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、経営体育成総合支援事業、水産業強化支援事業・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業・競争力強化型機器導入緊急対策事業
-----------	--

3 年目（令和 8 年度） 所得向上率（基準年比）8.8%

漁業収入向上のための取組	①漁獲物の品質向上 漁協は、漁業者や仲買人と協力し、当地区において最も漁獲量の多い「タコ」をはじめ、カレイ類、ハモ、イカ類など淡路島西海岸で漁獲される水産物について、以下取組により品質向上を図る。 ・漁船漁業者は、規格外の小さな魚体のものが誤って販売されるとすぐに魚価が下がるため、誤混入を避けて単価の高い状態を保持するよう、漁船上での目視選別、規格外の再放流を徹底したうえで共販市場にかけ、水揚げ後の選別等荷さばき作業時間の短縮による市場の効率化により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して継続する。前年の結果を踏まえ、市場作業効率化の手法を改善しながら取り組んでいく。 ・漁船漁業者は、マダコ、カレイ類、ハモなどの活魚について、漁獲時の網ズレによる魚体の傷や船上での選別や生簀への収容作業のストレスによる活力低下でロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、船上収容時の網ズレ軽減のため漁船甲板にゴム板を敷き、操業中の船上選別から漁船の生簀への収容時には、人の手で直接魚体に触れて魚が傷まないよう、手袋の着用を徹底する。前年の結果を踏まえ、活魚維持の手法を改善しながら取り組んで行く。 ・漁船漁業者は、阪神間の中央・地方卸売市場へカレイ類やマダコ等の活魚出荷も行なっており、活魚車による市場への搬送時には氷を用いて活魚槽内の水温を適温に一定管理するとともに、エアレーションによる水槽への酸素供給を徹底し、活力保持に努めることで死魚のロス率を極力なくし、活魚での出荷率の向上に取り組み、当地区の産地としての評価を向上させることに努める。前年の結果を踏まえ、活魚維持の手法を改善しながら取り組んで行く。 ②ノリ生産額の増大 ノリ養殖業者全員は、破れ製品や異物混入等の不良品削減や製品の生菌数削減のため、県漁連から指導されている日々の生産開始時のノリ原藻洗浄機器への通水を十分に行い、残存しているノリの破片や異物の洗浄を徹底するとともに、県漁連の指導により開始された異物混入対策点検表の記載を徹底し、良品生産の拡大による生産額の増大を継続する。前年の結果を踏まえ、ノリの品質向上の手法を改善しながら取り組んで行く。 ③漁場環境の保全と資源量の増大 ・全漁業者は、海底耕耘、アサリ等二枚貝の放流等漁場環境の保全にかかる活動を継続する。また、『漁業者による森づくり活動』に参加し 植樹・伐採作業を行う事で豊かな森を作り、漁場環境の保全に取り組む。 ・全漁業者は、農業者と協力し、ため池に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給するかいぼり（ため池の底掃除）作業等により栄養塩低下を抑え、そして栄養塩を供給することで海苔の生産量および生産額の増大を図る。 ・全漁業者は、オニオコゼ、ヒラメ、マコガレイ、クマエビの種苗の放流等栽培漁業や資源管理の取り組みに継続して実施し、資源増大を目指す。
--------------	---

	④地元水産物の消費拡大 ・漁協は、全漁業者と協力し、地元商工会等とも連携して、夏季に海水浴場客を対象にマダコの掴み取りの実施や、当荷捌き施設に併設した県民交流広場を活用し、タコ飯・タコの唐揚げ等を振舞うなど地元特産のマダコのPRや県民交流広場での青空市の開催や地元消費者等に魚の調理方法や食べ方などの料理講習会を開催し、水産物のPR活動や魚食普及による消費拡大の取り組みを継続して行う。 ・漁協は、地元商店やコンビニエンスストア、高速道路パーキング内の店舗等と提携して地元特産の味付け海苔の販売を提案し、地元住民はもとより淡路島への観光客に地元特産の「ノリ」を食べてもらう事により、消費拡大の取り組みを行う。 ⑤新規漁業者の確保及び育成 漁協は、全漁業者と協力し、経営体育成総合支援事業を活用し、漁業への就業希望者に対し漁業者が海上での漁業技術や陸上での網の補修作業などの実践研修等を行い、新規就業者の確保と育成を進める。
漁業コスト削減のための取組	①燃油高騰に対する備え ・漁協は、漁業セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油の高騰に備える。 ②省燃油活動の推進 ・全漁業者による漁場までの減速航行の徹底、定期的な船底清掃による抵抗削減などを実施し燃油消費量を削減させる。 ③省エネ機器の継続活用 ・小型底びき網漁業者及びノリ養殖業者グループが、競争力強化型機器導入緊急対策事業を活用して導入した省エネ機器の継続活用により、当該漁業者の燃料消費量の削減を図る。 ④ノリ生産の経費削減 ・令和3年度に大型ノリ自動乾燥機を導入した1経営体・令和4年度にノリ高性能刈取船を導入した1経営体・令和2年度に漁船エンジンを導入した2経営体は、効率的なノリ養殖業を行い、ノリ加工にかかる水道光熱費または燃料消費量の削減等、コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 ノリ養殖漁業4水産は、過年度に導入した大型ノリ自動乾燥機を活用し、引き続き、ノリ加工にかかる水道光熱費等コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 先行して補助事業を活用した水産の生産状況、経費の削減状況を参考として他の水産についても大型ノリ自動乾燥機、上屋、ノリ高性能刈取船の導入を目指す。
漁村の活性化のための取組	①消費者との交流の促進 ・当地区の荷捌所に併設された「県民交流広場」を活用し、漁協・漁業者による地元水産物や総菜を販売する青空市やふれあいイベント等を精力的に行い、漁村の活性化に取り組む。 また、年に1回開催している、淡路市9漁協で構成されている淡路市漁業振興協議会が主催する『淡路市漁業水産祭り』を今後も継続し、地域との交流を深め 水産物の消費拡大も図ると共に 漁村の活性化に取り組む。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、経営体育成総合支援事業、水産業強化支援事業・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業・競争力強化型機器導入緊急対策事業

漁業収入向上の ための取組	①漁獲物の品質向上 漁協は、漁業者や仲買人と協力し、当地区において最も漁獲量の多い「タコ」をはじめ、カレイ類、ハモ、イカ類など淡路島西海岸で漁獲される水産物について、以下取組により品質向上を図る。 ・漁船漁業者は、規格外の小さな魚体のものが誤って販売されるとすぐに魚価が下がるため、誤混入を避けて単価の高い状態を保持するよう、漁船上での目視選別、規格外の再放流を徹底したうえで共販市場にかけ、水揚げ後の選別等荷さばき作業時間の短縮による市場の効率化により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して継続する。前年の結果を踏まえ、市場作業効率化の手法を改善しながら取り組んでいく。 ・漁船漁業者は、マダコ、カレイ類、ハモなどの活魚について、漁獲時の網ズレによる魚体の傷や船上での選別や生簀への収容作業のストレスによる活力低下でロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、船上収容時の網ズレ軽減のため漁船甲板にゴム板を敷き、操業中の船上選別から漁船の生簀への収容時には、人の手で直接魚体に触れて魚が傷まないよう、手袋の着用を徹底する。前年の結果を踏まえ、活魚維持の手法を改善しながら取り組んでいく。 ・漁船漁業者は、阪神間の中央・地方卸売市場へカレイ類やマダコ等の活魚出荷も行なっており、活魚車による市場への搬送時には氷を用いて活魚槽内の水温を適温に一定管理するとともに、エアレーションによる水槽への酸素供給を徹底し、活力保持に努めることで死魚のロス率を極力なくし、活魚での出荷率の向上に取り組み、当地区の産地としての評価を向上させることに努める。前年の結果を踏まえ、活魚維持の手法を改善しながら取り組んでいく。 ②ノリ生産額の増大 ノリ養殖業者全員は、破れ製品や異物混入等の不良品削減や製品の生菌数削減のため、県漁連から指導されている日々の生産開始時のノリ原藻洗浄機器への通水を十分に行い、残存しているノリの破片や異物の洗浄を徹底するとともに、県漁連の指導により開始された異物混入対策点検表の記載を徹底し、良品生産の拡大による生産額の増大を継続する。前年の結果を踏まえ、ノリの品質向上の手法を改善しながら取り組んでいく。 ③漁場環境の保全と資源量の増大 ・全漁業者は、海底耕耘、アサリ等二枚貝の放流等漁場環境の保全にかかる活動を継続する。また、『漁業者による森づくり活動』に参加し 植樹・伐採作業を行う事で豊かな森を作り、漁場環境の保全に取り組む。 ・全漁業者は、農業者と協力し、ため池に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給するかいぼり（ため池の底掃除）作業等により栄養塩低下を抑え、そして栄養塩を供給することで海苔の生産量および生産額の増大を図る。 ・全漁業者は、オニオコゼ、ヒラメ、マコガレイ、クマエビの種苗の放流等栽培漁業や資源管理の取り組みに継続して実施し、資源増大を目指す。 ④地元水産物の消費拡大 ・漁協は、全漁業者と協力し、地元商工会等とも連携して、夏季に海水浴場客を対象にマダコの掴み取りイベントの実施や、当荷捌き施設に併設した県民交流広場を活用し、タコ飯・タコの唐揚げ等を振舞うなど地元特産の
--------------------------	---

	マダコのPRや県民交流広場での青空市の開催や地元消費者等に魚の調理方法や食べ方などの料理講習会を開催し、水産物のPR活動や魚食普及による消費拡大の取り組みを継続して行う。 ・漁協は、地元商店やコンビニエンスストア、高速道路パーキング内の店舗等と提携して地元特産の味付け海苔の販売を提案し、地元住民はもとより淡路島への観光客に地元特産の「ノリ」を食べてもらう事により、消費拡大の取り組みを行う。 ⑤新規漁業者の確保及び育成 漁協は、全漁業者と協力し、経営体育成総合支援事業を活用し、漁業への就業希望者に対し漁業者が海上での漁業技術や陸上での網の補修作業などの実践研修等を行い、新規就業者の確保と育成を進める。
漁業コスト削減のための取組	①燃油高騰に対する備え ・漁協は、漁業セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油の高騰に備える。 ②省燃油活動の推進 ・全漁業者による漁場までの減速航行の徹底、定期的な船底清掃による抵抗削減などを実施し燃油消費量を削減させる。 ③省エネ機器の継続活用 ・小型底びき網漁業者及びノリ養殖業者グループが、競争力強化型機器導入緊急対策事業を活用して導入した省エネ機器の継続活用により、当該漁業者の燃料消費量の削減を図る。 ④ノリ生産の経費削減 ・令和3年度に大型ノリ自動乾燥機を導入した1経営体・令和4年度にノリ高性能刈取船を導入した1経営体・令和2年度に漁船エンジンを導入した2経営体は、効率的なノリ養殖業を行い、ノリ加工にかかる水道光熱費または燃料消費量の削減等、コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 ノリ養殖漁業4水産は、過年度に導入した大型ノリ自動乾燥機を活用し、引き続き、ノリ加工にかかる水道光熱費等コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 先行して補助事業を活用した水産の生産状況、経費の削減状況を参考として他の水産についても大型ノリ自動乾燥機、上屋、ノリ高性能刈取船の導入を目指す。
漁村の活性化のための取組	①消費者との交流の促進 ・当地区の荷捌所に併設された「県民交流広場」を活用し、漁協・漁業者による地元水産物や総菜を販売する青空市やふれあいイベント等を精力的に行い、漁村の活性化に取り組む。 また、年に1回開催している、淡路市9漁協で構成されている淡路市漁業振興協議会が主催する『淡路市漁業水産祭り』を今後も継続し、地域との交流を深め水産物の消費拡大も図ると共に漁村の活性化に取り組む。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、経営体育成総合支援事業、水産業強化支援事業・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業・競争力強化型機器導入緊急対策事業

漁業収入向上の ための取組	①漁獲物の品質向上 漁協は、漁業者や仲買人と協力し、当地区において最も漁獲量の多い「タコ」をはじめ、カレイ類、ハモ、イカ類など淡路島西海岸で漁獲される水産物について、以下取組により品質向上を図る。 ・漁船漁業者は、規格外の小さな魚体のものが誤って販売されるとすぐに魚価が下がるため、誤混入を避けて単価の高い状態を保持するよう、漁船上での目視選別、規格外の再放流を徹底したうえで共販市場にかけ、水揚げ後の選別等荷さばき作業時間の短縮による市場の効率化により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して継続する。前年の結果を踏まえ、市場作業効率化の手法を改善しながら取り組んでいく。 ・漁船漁業者は、マダコ、カレイ類、ハモなどの活魚について、漁獲時の網ズレによる魚体の傷や船上での選別や生簀への収容作業のストレスによる活力低下でロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、船上収容時の網ズレ軽減のため漁船甲板にゴム板を敷き、操業中の船上選別から漁船の生簀への収容時には、人の手で直接魚体に触れて魚が傷まないよう、手袋の着用を徹底する。前年の結果を踏まえ、活魚維持の手法を改善しながら取り組んでいく。 ・漁船漁業者は、阪神間の中央・地方卸売市場へカレイ類やマダコ等の活魚出荷も行なっており、活魚車による市場への搬送時には氷を用いて活魚槽内の水温を適温に一定管理するとともに、エアレーションによる水槽への酸素供給を徹底し、活力保持に努めることで死魚のロス率を極力なくし、活魚での出荷率の向上に取り組み、当地区の産地としての評価を向上させることに努める。前年の結果を踏まえ、活魚維持の手法を改善しながら取り組んでいく。 ②ノリ生産額の増大 ノリ養殖業者全員は、破れ製品や異物混入等の不良品削減や製品の生菌数削減のため、県漁連から指導されている日々の生産開始時のノリ原藻洗浄機器への通水を十分に行い、残存しているノリの破片や異物の洗浄を徹底するとともに、県漁連の指導により開始された異物混入対策点検表の記載を徹底し、良品生産の拡大による生産額の増大を継続する。前年の結果を踏まえ、ノリの品質向上の手法を改善しながら取り組んでいく。 ③漁場環境の保全と資源量の増大 ・全漁業者は、海底耕耘、アサリ等二枚貝の放流等漁場環境の保全にかかる活動を継続する。また、『漁業者による森づくり活動』に参加し 植樹・伐採作業を行う事で豊かな森を作り、漁場環境の保全に取り組む。 ・全漁業者は、農業者と協力し、ため池に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給するかいぼり（ため池の底掃除）作業等により栄養塩低下を抑え、そして栄養塩を供給することで海苔の生産量および生産額の増大を図る。 ・全漁業者は、オニオコゼ、ヒラメ、マコガレイ、クマエビの種苗の放流等栽培漁業や資源管理の取り組みに継続して実施し、資源増大を目指す。 ④地元水産物の消費拡大 ・漁協は、全漁業者と協力し、地元商工会等とも連携して、夏季に海水浴場客を対象にマダコの掴み取りイベントの実施や、当荷捌き施設に併設し
--------------------------	---

	た県民交流広場を活用し、タコ飯・タコの唐揚げ等を振舞うなど地元特産のマダコのPRや県民交流広場での青空市の開催や地元消費者等に魚の調理方法や食べ方などの料理講習会を開催し、水産物のPR活動や魚食普及による消費拡大の取り組みを継続して行う。 ・漁協は、地元商店やコンビニエンスストア、高速道路パーキング内の店舗等と提携して地元特産の味付け海苔の販売を提案し、地元住民はもとより淡路島への観光客に地元特産の「ノリ」を食べてもらう事により、消費拡大の取り組みを行う。 ⑤新規漁業者の確保及び育成 漁協は、全漁業者と協力し、経営体育成総合支援事業を活用し、漁業への就業希望者に対し漁業者が海上での漁業技術や陸上での網の補修作業などの実践研修等を行い、新規就業者の確保と育成を進める。
漁業コスト削減のための取組	①燃油高騰に対する備え ・漁協は、漁業セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油の高騰に備える。 ②省燃油活動の推進 ・全漁業者による漁場までの減速航行の徹底、定期的な船底清掃による抵抗削減などを実施し燃油消費量を削減させる。 ③省エネ機器の継続活用 ・小型底びき網漁業者及びノリ養殖業者グループが、競争力強化型機器導入緊急対策事業を活用して導入した省エネ機器の継続活用により、当該漁業者の燃料消費量の削減を図る。 ④ノリ生産の経費削減 ・令和3年度に大型ノリ自動乾燥機を導入した1経営体・令和4年度にノリ高性能刈取船を導入した1経営体・令和2年度に漁船エンジンを導入した2経営体は、効率的なノリ養殖業を行い、ノリ加工にかかる水道光熱費または燃料消費量の削減等、コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 ノリ養殖漁業4水産は、過年度に導入した大型ノリ自動乾燥機を活用し、引き続き、ノリ加工にかかる水道光熱費等コストの削減及び労働環境の改善に取り組む。 先行して補助事業を活用した水産の生産状況、経費の削減状況を参考として他の水産についても大型ノリ自動乾燥機、上屋、ノリ高性能刈取船の導入を目指す。
漁村の活性化のための取組	①消費者との交流の促進 ・当地区の荷捌所に併設された「県民交流広場」を活用し、漁協・漁業者による地元水産物や総菜を販売する青空市やふれあいイベント等を精力的に行い、漁村の活性化に取り組む。 また、年に1回開催している、淡路市9漁協で構成されている淡路市漁業振興協議会が主催する『淡路市漁業水産祭り』を今後も継続し、地域との交流を深め水産物の消費拡大も図ると共に漁村の活性化に取り組む。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、経営体育成総合支援事業、水産業強化支援事業・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業・競争力強化型機器導入緊急対策事業

(5) 関係機関との連携

取り組みの効果が十分発揮されるよう、行政（兵庫県・淡路市）、系統団体（兵庫県漁業協同組合連合会・兵庫県漁業共済組合等）、地域団体（淡路水交会・西浦水交会・淡路市漁業振興協議会）と連携を図る。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

取組の評価・分析を行うため、年に1回行われる運営委員会(各地区の代表者・理事・監事・市役所)にて、取り組みの報告などをし、その他の意見も聴取し、次年度の取組の改善等に繋げる。また、部会構成員全体がプランに取り組めるよう体制を協議して実施する。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

タコの単価	基準年	平成30年度～令和4年度5年平均： 1,134円 (単位)
	目標年	令和10年度： 1,191円 (単位)
イベント等の集客数	基準年	平成30年度～令和4年度5年平均： 100人/回 (単位)
	目標年	令和10年度： 110人/回 (単位)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

・タコの単価 基準年の単価は、平成30年から令和4年の5か年平均で算出。目標年の単価は、基準年の5%向上。 タコを丁寧に取扱い、選別作業を今以上に徹底し 品質を向上することにより単価の向上を図る。 ・イベント等の集客数 基準年の集客数は、平成30年から令和4年の5か年の平均で算出。目標年の人数は、基準年の10%向上を目指す。 コロナ禍によりイベント回数が減少していたが、漁村の活性化を目指し今後は精力的に開催し 販売する品目なども増やして行くことにより、集客数の増加を図る。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備える事により、漁業収入の安定を図り漁業所得を確保する。
水産多面的機能発揮対策事業	干潟等の保全活動等を行う事により漁場環境の改善を図る。
水産業強化支援事業	大型ノリ全自動乾燥機・上屋・ノリ高性能刈取機の導入により漁業コストの削減を図り、漁業経営体質を強化する。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	高性能な漁船をリースし、中核的漁業者として将来の地域漁業の担い手を育成する。
競争力強化型機器導入緊急対策事業	機器を導入する事により、漁業所得の向上を図る。
経営体育成総合支援事業	漁業への新規就業者の確保と育成を進め、漁業の活性化を図る。
未定	地産地消と食育の推進。
未定	災害の強い漁村地域づくり。